

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	105人	国語B	105人
② 算数A	105人	算数B	105人
③ 理科	105人		

5 留意事項

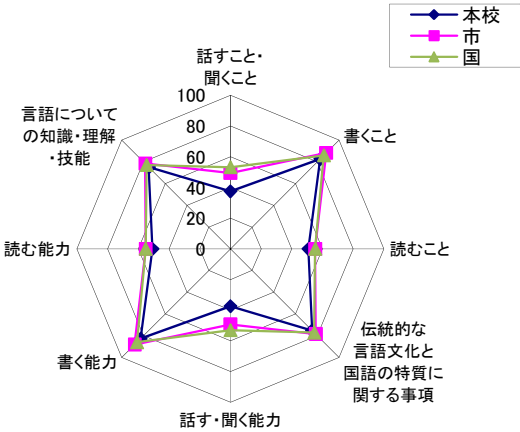
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

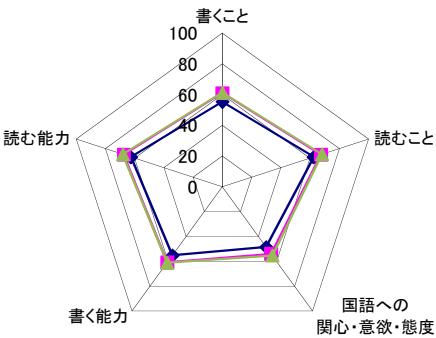
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	37.4	49.3	53.0
	書くこと	82.8	88.2	86.0
	読むこと	50.8	55.2	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.2	78.5	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	37.4	49.3	53.0
	書く能力	82.8	88.2	86.0
	読む能力	50.8	55.2	55.2
	言語についての知識・理解・技能	75.2	78.5	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	55.2	60.9	61.1
	読むこと	62.5	67.4	68.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	48.5	54.0	55.4
	話す・聞く能力			
	書く能力	55.2	60.9	61.1
	読む能力	62.5	67.4	68.1
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

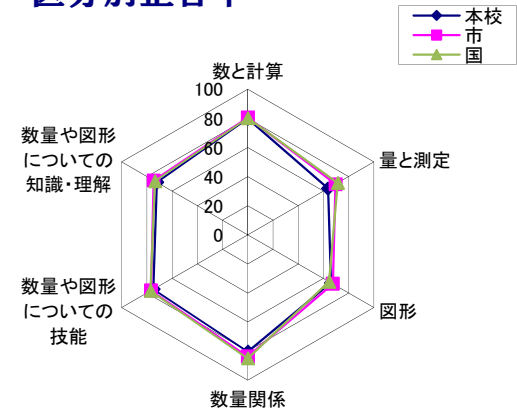
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●国や県の平均を大きく下回った。 ○聞き方の説明として適切なものを選ぶ設問に対して、無回答率は0ポイントであった。	・話の内容に対する聞き方を工夫することに課題が見られるため、本問を活用し、「聞き方のポイント～提案の理由」に着目する、提案の内容と自分たちの様子を比べながら聞く、提案の効果や妥当性を判断しながら聞く」を復習させる。 ・能動的な聞き方を意識させるように、ふだんの授業や生活の中で、聞き方の知識や技能を繰り返し用いる機会を多くもつようにする。
書くこと	●領域A・Bともに、国や県の平均を5ポイント以上下回ったものが多い。特にB(活用)での正答率が低い。正答率を下けている原因のひとつは、無回答者の多さで、自分で考えて文章を書くことに抵抗がある児童が見られる。 ○目的や意図に応じ、新聞の割り付けをすることは、県の平均を上回った。	・引用のしかたとその必要性や効果を実感できるような、心に残る言葉を引用した本の紹介リーフレットをつくる、などの教材を工夫し取り組ませる。また、「取材したことを整理して書く」に対しては、総合の時間なども活用して、内容の取捨選択や伝えたいことを意識した文の書き換えを繰り返し復習させる。 ・無回答者を減らすため、与えられた課題に対し、解答の見つけ方や、解答文を導き出す書き出しの工夫などの指導を行う。
読むこと	●領域AよりBで、国や県の平均を5～9ポイント近く下回っている。特に、記述式で答える問題の根拠を読み取る力が十分でない。 ○目的に応じ、中心となる語を捉えることは、県の平均を上回った。	・本文を精読できるように、音読の指導をさらに行っていく。 ・繰り返し文を読むことや理解しながら読み進むよう支援していく。教科書に書き込ませたり、つぶやきを拾ったりして自分の考えを持つことを重視した読む授業を行うようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●国や県と比べて無回答率がやや高い。 ○国や県と、同程度の正答率である。特に漢字の書きでは、国・県より高い正答率の設問があった。	・今後も朝の学習や漢字豆テストを継続的にを行い、力をつけさせていく。教科書に載っている熟語だけでなく、一般的な熟語にも範囲を広げ漢字を応用する力を伸ばすようにする。 ・12月と2月に漢字まとめのコンクールを行う。6年で学習した全範囲からの出題とし、意欲向上を図る。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

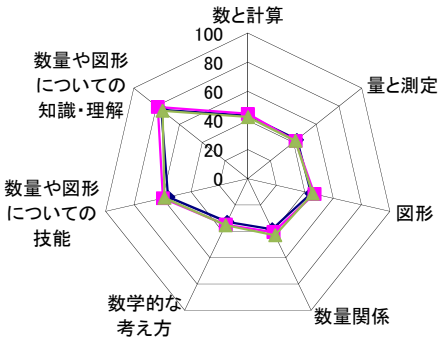
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	79.8	80.7	80.1
	量と測定	63.6	69.6	71.3
	図形	65.9	67.4	64.5
	数量関係	80.3	83.7	84.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	75.0	76.8	77.2
	数量や図形についての知識・理解	72.1	74.8	73.6



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	43.3	44.6	42.4
	量と測定	43.1	41.8	41.7
	図形	44.6	46.8	45.6
	数量関係	38.4	40.6	43.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	32.7	34.9	35.3
	数量や図形についての技能	56.1	59.8	58.7
	数量や図形についての知識・理解	75.8	79.1	74.9



★算数に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○	
---	--

★指導の工夫と改善

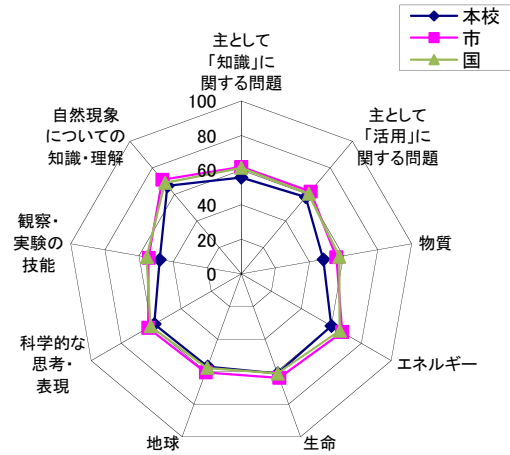
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○全般におおむね満足できる結果であった。特に算数Bでは、全国の平均を上回った。 ●算数Aで、分数-分数の計算や、算数Bで四捨五入しておよその数にして計算する問題の誤答が目立った。	・本校で実施している、毎週金曜日の朝の学習「算数チャレンジ」の時間を活用し、苦手な分野の復習をさせていきたい。また、ドリルを活用したり、プリント等の補助教材を活用したりして、授業の中でも計算の時間を確保していきたい。
量と測定	○算数Bで、単位量あたりの大きさを用いて、目的に応じた買い物の仕方を選択し、代金を求める問題では、全国の平均より高い正答率であった。 ●算数Aで、「時刻や角度を求める」内容での正答率の低さが目立った。	・これまで、実生活で生かせるような、思考力を要する教科書巻末の問題やプリントの教材などを取り上げて児童に挑戦させてきたので、それを今後も続けていきたい。
図形	○算数Aでは、若干ではあるが、全国の平均を上回った。特に、見取り図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を考える問題はとてもよくできていた。 ●算数Bで、合同の理由や図形の性質を記述する問題の誤答と無回答率の高さが目立った。	・合同の定義や図形の性質を理解できるよう、図形の単元の際に復習の時間をとりながら、繰り返し学習していく。
数量関係	○算数Aで、グラフを読み取る問題はおおむね満足できる結果であった。 ●算数Bで、比較量と割合から基準量を求める問題の誤答が目立った。	・この分野も、単元と単元の間や少人数学習のときに、思考力を要する教科書巻末の問題などを取り上げて児童に挑戦させてきたので、それを今後も続けたい。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	55.7	61.9	61.3
	主として「活用」に関する問題	58.0	62.2	60.5
区分等	物質	48.1	55.7	57.4
	エネルギー	60.1	67.2	65.6
	生命	61.1	63.8	61.2
	地球	56.9	60.5	57.8
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	58.0	62.2	60.5
	観察・実験の技能	47.9	54.4	55.5
	自然現象についての知識・理解	66.4	71.1	68.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○	
---	--

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質	○水の温まり方について、実験結果から考えす内容を選ぶ問題については、栃木県の平均を5.3ポイント上回っている。 ●全体的に宇都宮市の平均を7ポイント下回っている。示された実験器具の名称を答える問題や適切な実験器具の使い方を選ぶ問題、水の温度と砂糖の解ける量の関係を理解し、解答する問題については、正答率が低かった。	・実験器具の名称や操作手順をとらえるためには、操作の意味をとらえることを理解させることが大切である。メスシリンダーであれば、スポイトの機能を確認するなど実験操作の意味について一つ一つ確認するようにする。 ・析出する砂糖の量をグラフから考察するためには、温度によって溶けるものの量が違うことや溶けているものを取り出すことについて実感を伴って理解できるようにする。
エネルギー	●全体的に、宇都宮市の平均を7ポイント程度下回っている。振り子時計の進みを調整する問題や振り子時計の軸に用いる適切な金属を選ぶ問題について、の正答率が低かった。	・実験結果から導かれる考察については、事実と解釈したことを区別して示す必要がある。まずは、できるだけ自分の言葉でまとめられるように指導するとともに、表現したことを振り返り、事実のとらえ方が適切であったか、解釈した内容が妥当であったかを確認させていく。
生命	○全体的に宇都宮市の平均を2ポイント程度下回っているが、生物の成長に必要な養分の取り方などを答える問題など、宇都宮市の平均並みの正答率を示す問題もいくつかある。 ●メダカのオスとメスを見分けるための部位を答える問題では、栃木県の平均を10ポイント程度下回った。	・メダカの雌雄を見分ける能力を高めるためには、できるだけ多くの児童にメダカを育て、繰り返し観察することを通して、ひれの形状の違いで雌雄を見分けられるようにしていく。 ・学習を通して得た知識を実際の自然や日常の生活に当てはめて考えられるようにしていく。
地球	●全体的に、宇都宮市の平均を3ポイント程度下回っている。特に、水が水蒸気になる現象について、その名称を書く記述問題では、正答率については、ほぼ平均に近い。しかしながら、無解答率が栃木県の平均を10ポイント程度上回っている。	・教科書や図鑑のほかに新聞、テレビ、ニュースなどで扱われる自然現象や宇宙開発の話題を取り上げたり、実際に観察する体験を多く取り入れたりしながら、意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・学習したことをノートにまとめたり、発表したりするなど言語で表現する活動を取り入れて知識を定着させていく。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 朝食を毎日食べている児童の割合が高い。(本校92.2%, 全国87.6%)
 - 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していると回答した児童の割合が低い。(本校22.5%, 県30%, 全国25.6%)
 - 友達の前で発表するのが得意でないと回答した児童の割合が高い。(本校24.5%, 県16.3%, 全国15.8%)
 - 将来の夢や目標を持っていると回答した児童の割合が低く(本校62.7%, 県70.2%, 全国70.5%), どちらかといえば持っていない、持っていないと回答した児童の割合が高い。(本校16.7%, 県12.3%, 全国13.4%)
 - 平日にテレビゲームをしたり、携帯電話やスマートフォンでの通話やメール、インターネットを使用したりする時間は、少ない傾向にある。テレビゲームに関しては、全くしないと回答した児童が19.6%と多く、県や全国を5%以上上回っている。
 - 休日に、全く勉強しないと回答した児童が9.8%いる。
 - 平日に全く読書をしないと回答した児童が28.4%と多い傾向にある。
 - 家庭学習において、自分で計画を立てて勉強していると回答した児童の割合が高い。(本校32.4%, 県30.3%, 全国27.4%)
 - 家で、宿題をしていると回答した児童は73.5%(県87.2%, 全国87.4%)と少ない傾向にあり、さらに全く宿題をしないと回答した児童は2%いる。
 - 人の気持ちが分かる人間や人の役に立つ人間になりたいと思っている児童が多い。
 - いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている児童の割合が85.3%と高く、いじめはいけなさと理解できている。
 - 「総合的な学習」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思っている児童が多い。
 - 国語や算数の学習が好きで、大切であると感じている児童が多い。また、将来、社会に出たときに役立つと思っている。
 - 理科の学習では、観察や実験を行うことが好きと回答した児童が68.6%と多い。
 - 授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと感じている児童の割合が高い。
- 指導上の工夫
- ・各教科等において、達成感や成就感を味わわせる活動を意図的に取り入れ、できたという喜びを積み重ねていくことにより困難に立ち向かう気持ちを育てていく。また、道徳の授業を活用し、失敗を恐れずに挑戦しようとする気持ちを育てていく。
 - ・全員が発表する機会を設けるとともに、友達の意見を尊重し、違った考えであっても認め合う環境をつくる。また、各教科や会話科の時間を活用して、良い聞き方の指導を継続して行っていく。
 - ・家庭学習の取り組み方について、継続して指導を行う。自主学習については、良い取り組みを紹介し、児童の意識を高めていく。自分で考えて取り組むことが難しい児童には、適切な課題を与えるようにし、全員が家庭学習に取り組むことができるように支援する。